

商品名 ロサルヒド配合錠LD「科研」 医薬品基本情報

薬効	2149 その他の血圧降下剤	一般名	ロサルタンカリウム・ヒドロクロロチアジド配合剤（1）錠
英名	Losarhyd LD KAKEN	剤型	錠
薬価	17.40	規格	1錠
メーカー	ダイト	毒劇区分	

ロサルヒド配合錠LD「科研」の効能・効果

高血圧症

ロサルヒド配合錠LD「科研」の使用制限等

1. 本剤成分又は含有成分で過敏症の既往歴、類薬で過敏症の既往歴、重篤な肝機能障害、無尿、透析、急性腎障害、体液中のカリウム減少、体液中のナトリウム減少、アリスキレン投与中、デスモプレシン酢酸塩水和物投与中＜男性における夜間多尿による夜間頻尿＞	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	禁止
2. 両側性腎動脈狭窄、片腎で腎動脈狭窄、高カリウム血症、腎機能障害、血清クレアチニン値2. 0mg／dL超	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	原則禁止
3. 手術前24時間	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	希望禁止
4. 血清カリウム値異常、腎機能障害、血清カリウム値が高くなりやすい、コントロール不良の糖尿病、脳血管障害、体液量が減少、過度の発汗、水分摂取の不十分、減塩療法中、厳重な減塩療法中、重篤な脳動脈硬化症、重篤な冠動脈硬化症、痛風の家族歴、糖尿病の家族歴、高尿酸血症、痛風、糖尿病、嘔吐、下痢、高カルシウム血症、副甲状腺機能亢進症、交感神経切除後、腎機能低下、血清クレアチニン値1 . 5～2. 0mg／dL、肝機能障害＜重篤な肝機能障害を除く＞又はその既往、浮腫のある高齢者	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	注意

ロサルヒド配合錠LD「科研」の副作用等

1.	アナフィラキシー、不快感、口内異常感、発汗、蕁麻疹、呼吸困難、全身潮紅、浮腫、血管浮腫、顔面腫脹、口唇腫脹、咽頭腫脹、舌腫脹、腫脹、急性肝炎、劇症肝炎、急性腎障害、ショック、失神、冷感、嘔吐、意識消失、筋肉痛、脱力感、CK上昇、血中ミオグロビン上昇、尿中ミオグロビン上昇、横紋筋融解症、低カリウム血症、高カリウム血症、血清カリウム値異常変動、倦怠感、不整脈、心室性期外収縮、心房細動、汎血球減少、白血球減少、血小板減少、再生不良性貧血、溶血性貧血、壊死性血管炎、間質性肺炎、肺水腫、急性呼吸窮迫症候群、全身性エリテマトーデス悪化、低血糖、空腹感、冷汗、手の震え、集中力低下、痙攣、意識障害、食欲不振、嘔気、低ナトリウム血症、急性近視、霧視、視力低下、閉塞隅角緑内障	記載場所	重大な副作用
		頻度	頻度不明
2.	耳鳴、不眠、知覚異常、調律障害、頻脈、胸痛、口内炎、下痢、口角炎、胃不快感、胃潰瘍、腹部仙痛、膵炎、唾液腺炎、便秘、食欲不振、腹部不快感、口渇、多形紅斑、光線過敏、紅皮症、紅斑、皮膚そう痒、顔面潮紅、皮膚エリテマトーデス、好酸球数増加、好中球百分率増加、リンパ球数減少、発熱、味覚障害、しびれ感、眼症状、眼のかすみ、眼異和感、黄視症、ほてり、浮腫、筋肉痛、咳嗽、低マグネシウム血症、低クロール性アルカローシス、血清カルシウム増加、インポテンス、高カルシウム血症、副甲状腺障害、筋痙攣、関節痛、鼻閉、紫斑、呼吸困難、血清脂質増加、女性化乳房	記載場所	その他の副作用
		頻度	頻度不明
3.	めまい、浮遊感、眠気、頭痛、低血圧、起立性低血圧、動悸、嘔吐、嘔気、黄疸、肝機能障害、AST上昇、ALT上昇、LDH上昇、BUN上昇、クレアチニン上昇、発疹、蕁麻疹、貧血、赤血球数増加、赤血球数減少、ヘマトクリット低下、ヘマトクリット上昇、ヘモグロビン増加、白血球数増加、リンパ球数増加、倦怠感、CK上昇、高尿酸血症、高血糖症、頸部異和感、多汗、頻尿、CRP増加、尿中ブドウ糖陽性、尿中赤血球陽性、尿中白血球陽性、尿中蛋白陽性、BNP増加	記載場所	その他の副作用
		頻度	5%未満
4.	一過性血圧低下、ショック症状、意識消失、呼吸困難	記載場所	使用上の注意
		頻度	頻度不明
5.	低カリウム血症	記載場所	使用上の注意
		頻度	頻度不明
6.	高尿酸血症	記載場所	使用上の注意
		頻度	頻度不明
7.	重篤な血液障害	記載場所	使用上の注意
		頻度	頻度不明
8.	肝炎、重篤な肝障害	記載場所	使用上の注意
		頻度	頻度不明
9.	高カリウム血症	記載場所	使用上の注意
		頻度	頻度不明
10.	血清クレアチニン値上昇、血清尿酸値上昇	記載場所	使用上の注意
		頻度	頻度不明

11. 血糖値上昇、糖尿病顕性化、電解質失調、脱水、急速に腎機能悪化、低カリウム血症、高カリウム血症、一過性血圧低下、低ナトリウム血症、血栓塞栓症、肝性昏睡、腎不全、頭蓋形成不全、肺形成不全、腎形成不全、死亡、羊水過少症、低血圧、多臓器不全、四肢拘縮、頭蓋顔面奇形、肺低形成、高ビリルビン血症、血小板減少症、血漿量減少、血液濃縮、子宮血流量減少、胎盤血流量減少、産仔体重減少、腎病理組織学的変化、脳梗塞、立ちくらみ、めまい、失神、基底細胞癌、有棘細胞癌

記載場所	使用上の注意
頻度	頻度不明

ロサルヒド配合錠LD「科研」の相互作用

1. 薬剤名等：アリスキレン

発現事象	非致死性脳卒中・腎機能障害・高カリウム血症及び低血圧のリスク増加	投与条件	糖尿病患者に使用する場合（ただし、他の降圧治療を行ってもなお血圧のコントロールが著しく不良の患者を除く）
理由・原因	レニン・アンジオテンシン系阻害作用が増強	指示	禁止

2. 薬剤名等：デスモプレシン酢酸塩水和物

発現事象	低ナトリウム血症	投与条件	-
理由・原因	いずれも低ナトリウム血症が発現	指示	禁止

3. 薬剤名等：グレープフルーツジュース

発現事象	降圧作用が減弱	投与条件	-
理由・原因	グレープフルーツジュースに含まれる成分のCYP3A4阻害作用により本剤の有効成分であるロサルタンカリウムの活性代謝物の血中濃度が低下	指示	禁止

4. 薬剤名等：アリスキレン

発現事象	-	投与条件	eGFRが ^a 60mL／min／1.73m ² 未満の腎機能障害
理由・原因	レニン・アンジオテンシン系阻害作用が増強	指示	原則禁止

5. 薬剤名等：カリウム保持性利尿剤

発現事象	血清カリウム値が上昇	投与条件	-
理由・原因	本剤の成分であるロサルタンカリウムとの併用によりカリウム貯留作用が増強	指示	注意

6. 薬剤名等：カリウム補給剤

発現事象	血清カリウム値が上昇	投与条件	-
理由・原因	本剤の成分であるロサルタンカリウムとの併用によりカリウム貯留作用が増強	指示	注意

7. 薬剤名等：トリメトプリム含有製剤

発現事象	血清カリウム値が上昇	投与条件	-
理由・原因	本剤の成分であるロサルタンカリウムとの併用によりカリウム貯留作用が増強	指示	注意

8. 薬剤名等：利尿降圧剤

発現事象	一過性の血圧低下	投与条件	-
理由・原因	利尿降圧剤で治療を受けている患者にはレニン活性が亢進している患者が多く、本剤が奏効しやすい	指示	注意

9. 薬剤名等：アリスキレン

発現事象	高カリウム血症、低血圧、腎機能障害	投与条件	-
理由・原因	レニン・アンジオテンシン系阻害作用が増強	指示	注意

10. 薬剤名等：アンジオテンシン変換酵素阻害剤

発現事象	高カリウム血症、低血圧、腎機能障害	投与条件	-
理由・原因	レニン・アンジオテンシン系阻害作用が増強	指示	注意

11. 薬剤名等：バルビツール酸誘導体

発現事象	起立性低血圧が増強	投与条件	-
理由・原因	これらの薬剤の中樞抑制作用と本剤の成分であるヒドロクロロチアジドの降圧作用	指示	注意

12. 薬剤名等：あへんアルカロイド系麻薬

発現事象	起立性低血圧が増強	投与条件	-
理由・原因	本剤の成分であるヒドロクロロチアジドとあへんアルカロイドの大量投与で血圧下降	指示	注意

13. 薬剤名等：アルコール

発現事象	起立性低血圧が増強	投与条件	-
理由・原因	本剤の成分であるヒドロクロロチアジドと血管拡張作用を有するアルコールとの併用により降圧作用が増強	指示	注意

14. 薬剤名等：昇圧アミン

発現事象	作用を減弱	投与条件	-
理由・原因	本剤の成分であるヒドロクロロチアジドは昇圧アミンに対する血管壁の反応性を低下	指示	注意

15. 薬剤名等：ツボクラリン及びその類似作用物質

発現事象	麻痺作用を増強	投与条件	-
理由・原因	本剤の成分であるヒドロクロロチアジドによる血清カリウム値の低下により、これらの薬剤の神経・筋遮断作用を増強	指示	注意

16. 薬剤名等：降圧作用を有する他の薬剤

発現事象	降圧作用を増強	投与条件	-
理由・原因	作用機序の異なる降圧作用により互いに協力的に作用	指示	注意

17. 薬剤名等：ジギタリス剤

発現事象	心臓に対する作用を増強し不整脈	投与条件	-
理由・原因	本剤の成分であるヒドロクロロチアジドによる血清カリウム値の低下により多量のジギタリスが心筋Na-K ATPaseに結合し、心収縮力増強と不整脈が起こる（マグネシウム低下も同様の作用を示す）	指示	注意

18. 薬剤名等：乳酸ナトリウム

発現事象	チアジド系薬剤による代謝性アルカローシス・低カリウム血症を増強	投与条件	-
理由・原因	本剤の成分であるヒドロクロロチアジドのカリウム排泄作用により低カリウム血症や代謝性アルカローシスが引き起こされることがあり、アルカリ化剤である乳酸ナトリウムの併用はこの状態を更に増強	指示	注意

19. 薬剤名等：リチウム

発現事象	中毒	投与条件	-
理由・原因	本剤の成分であるロサルタンカリウムのナトリウム排泄作用により、リチウムの蓄積	指示	注意

20. 薬剤名等：リチウム

発現事象	振戦・消化器愁訴等リチウム中毒を増強	投与条件	-
理由・原因	本剤の成分であるヒドロクロロチアジドは腎におけるリチウムの再吸収を促進し、リチウムの血中濃度を上昇	指示	注意

21. 薬剤名等：副腎皮質ホルモン剤

発現事象	低カリウム血症	投与条件	-
理由・原因	本剤の成分であるヒドロクロチアジド及び副腎皮質ホルモン剤、ACTHともカリウム排泄作用を持つ	指示	注意

22. 薬剤名等：ACTH

発現事象	低カリウム血症	投与条件	-
理由・原因	本剤の成分であるヒドロクロチアジド及び副腎皮質ホルモン剤、ACTHともカリウム排泄作用を持つ	指示	注意

23. 薬剤名等：グリチルリチン製剤

発現事象	血清カリウム値の低下	投与条件	-
理由・原因	グリチルリチン製剤は低カリウム血症を主徴とした偽アルドステロン症を引き起こすことがあるため、本剤の成分であるヒドロクロチアジドとグリチルリチン製剤の併用により低カリウム血症を増強	指示	注意

24. 薬剤名等：糖尿病用剤

発現事象	作用を著しく減弱	投与条件	-
理由・原因	本剤の成分であるヒドロクロチアジドによるカリウム喪失により膵臓のβ細胞のインスリン放出が低下	指示	注意

25. 薬剤名等：コレステラミン

発現事象	チアジド系薬剤の作用が減弱	投与条件	-
理由・原因	コレステラミンの吸着作用により本剤の成分であるヒドロクロチアジドの吸収が阻害	指示	注意

26. 薬剤名等：非ステロイド性消炎鎮痛剤

発現事象	降圧作用が減弱	投与条件	-
理由・原因	プロスタグランジンの合成阻害作用	指示	注意

27. 薬剤名等：非ステロイド性消炎鎮痛剤

発現事象	さらに腎機能が悪化	投与条件	-
理由・原因	プロスタグランジンの合成阻害作用により、腎血流量が低下	指示	注意

28. 薬剤名等：非ステロイド性消炎鎮痛剤

発現事象	チアジド系薬剤の作用が減弱	投与条件	-
理由・原因	非ステロイド性消炎鎮痛剤のプロスタグランジン合成酵素阻害作用により、腎内プロスタグランジンが減少し、水・ナトリウムの体内貯留が生じて本剤の成分であるヒドロクロチアジドの作用と拮抗	指示	注意



薬学をはじめとする専門知識と情報処理技術が実現する高い信頼性と豊富な情報量

医薬品データベースの決定版 『 DIR 』

Copyright© 2005-2025 e-pharma All rights reserved.